

2024年6月1日

ちょっとした近況&成績優秀者に選ばれたことから感じたこと

明星大学教育学部教育学科特別支援教員コース3年の加藤春也です。「特別支援教員コース」とはいえ、私の場合は特別支援教員コース唯一、特別支援学校教諭一種免許状を取得出来ない人です。元々は、明星大学の『複数教員免許状取得プログラム』で中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)、特別支援学校教諭一種免許状を取得する予定でしたが、小学校の先生の需要が非常に高いことから特別支援教員コースの森下先生に「特別支援学校の教員免許は卒業後でも取れるから、小学校の免許は捨てない方が良い。」と助言を頂いたので、在学中は小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)を取得することになりました。

理由は①特別支援学校でのニーズが高いのは、国語と数学、美術と音楽の免許を取得している先生であること、②小学校は3、4年生で外国語活動、5、6年生で外国語の授業が始まっていることから英語の免許を取得している先生のニーズが高まっていることを挙げて頂きました。入学前から描いていた計画とは大きく外れてしまいましたが、卒業後に「あの時このように選択して良かった!」と思えるように今できることを尽くしていきたいと思いました。将来の夢は特別支援学校の教師です。

近況

教員採用試験もあと1か月を切るので、周りの友達は休み時間や中には授業中に取り組んでいる人もいる位、教員採用試験をかなり意識しています。私は東京都の特別支援学校で受験するので、教職教養と専門教養(特別支援学校)を勉強しています。専門用語が多すぎてなかなか覚えるのが難しいですが、特別支援の授業で学んだことや特別支援に関する法律を中心に、根本的な構造を理解するように意識しています。また、時には英語コースの授業が5限にあることから、来ている人数が少なすぎて先生がアイスを奢ってくれて出席した人達みんな喜んでいました。ちょっとした楽しみも味わいつつ、私含めて大半の学生達は教師に向かって着実に準備を進めています。

昨年度から英語コースの併修を受けていますが、英語の本質を暴いているような感覚です。同じ「英語」でも他者とコミュニケーションを取る練習だけでなく、音声学や音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論などの英語学の視点や異文化に関する視点、あるいは英語文学の視点、教育法の視点から「英語」という学問を深めていっています。例えば、アルファベットは全部で26個ありますが、種類で分けると様々な方法で色々な形で分かれています。音声や文字の形など様々です。英語科教育法では模擬授業後に省察を行いました。どのような意図でディクテーションを行ったのか、グループ活動をしたのか。など英語コースのみんなで意見を出し合って考えを深めていく時間が本当の学びになる価値だと思います。また、夏休みにフィリピンに教職インターンシップに行くので、英語力向上のために週に1時間、英会話教室に通うことにしました。ネイティブの先生とお話するのがとても楽しいです。この1時間だけは思いっきり英語を話せる異世界を味わっています。

今回、明星大学教育学部の成績優秀者に選ばれた旨を報告させていただきました。昨年度も選ばれたので2年連続で評価いただいてとても光栄です。私の周りの友達も2年連続で表彰されている人がいたことに尊敬しかないです。1年目はそのような表彰式があるのを知りませんでした。昨年、表彰式に行くと、私が知っている人が何人かいました。その人達は私が尊敬している仲間ばかりでした。表彰を受けて、「来年も頑張って勝ち取ろう!」と思いました。自分1人で頑張ろうと思ったらしんどかったのも、またあの仲間達と「アカデミックホールに行きたい!」と思い、日々大学の学びを無駄にしないようにその時間で他者に説明できるように理解しようと心がけました。そこで、私と同じく2年連続で表彰を受けた私の友達2人の尊敬ポイントをお伝えしたいと思います。2人は私が尊敬する友達の1人です。

私の友達1人目:同じ特別支援教員コースの友達

その友達は教育思想に興味があり、将来は小学校の特別支援学級の先生になりたいそうです。特別支援教育コーディネーターも目指しています。その友達のすごいところは特別支援に関して色々勉強しているところです。先日、知的障害を持っている子にどのような支援が必要なのかを考える課題が出されていました。鉛筆の本数を数える際に、10本入りの箱に入れていき、10のかたまりごとに分けておき、余った分はバラにして数えることで分かりやすくすることや、箱に入れる作業を通して、特別支援学校の作業学習や就労支援につながることも書かれていました。

普段の大学生活では、授業に関する話で盛り上がる事が多く、どのように支援をしていけば良いのかを話し合うことが多いです。特別支援の勉強や見識を得ているからこそ、その友達に助けられる子ども達も多いだろうと感じました。また、私が特別支援教員コースの教育課程を履修出来ないことから、授業資料を送っていただくことが多く、感謝しかありません。また、私が人間関係のことで悩んで相談すると、私の気持ちを分かってくれつつ、解決策を提示してくれて安心させてくれます。そんな私のことを考えてくれている友達に感謝です。

また、特別支援教員コースの男子達と旅行に行った時もホテルの予約から当日のスケジュールも色々計画を立ててくれて、とても楽しめた2日間になりました。特別支援教員コースの男子達のコミュニティも私個人的にはとても好きなので、また特別支援教員コースの男子達で旅行に行きたいなと感じました。卒業前にもう1回行きたいな!と伝えたいです。

私の友達2人目:美術が好きな友達

その友達は美術コースの併修をしています。言い換えると、美術の科目で複数教員免許取得プログラムに合格した友達です。私から見るとその友達は努力家です。昨年度は小学校の科目でいくつか一緒に受けていました。同じグループで私が授業者で模擬授業をした際には色々意見を出してくれましたし、助けてもらうことも多かったです。例えば、授業で教材を提示する際に「漢字を並べてみるのはどうかな?」と提案してくれました。色々提案してくれるうちに、「色々言っちゃってごめんね。」と謝ってくれました。私が「たくさん提案してくれて助かっているし嬉しいから気にしなくて大丈夫だよ。」と伝えましたが、その友達の中では申し訳なさそうに感じている様子でした。

普段の大学生活では、初回出会った時はお互いに話すことがありませんでしたが、ペアやグループで話し合うことで少しずつ話せる機会が増えていきました。それから、その友達から声をかけてくれることが多いです。今日の授業が始まる前も声をかけてくれました。学期ごとに関わっていくうちに、親近感を感じるようになったので、たまに近況報告で連絡をとっています。日々の大学生活で「どんなに課題が出てもその中から1つでも楽しめるようにしている」と言っていたので、前向きに取り組んでいる姿を見て感化されています。その友達に認めてもらっている私が幸せ者ですし誇りに思っています。卒業までに教師を目指したきっかけ、美術に興味を持ったきっかけなどをお話したいです。

他にも成績優秀者に選ばれていなくても、尊敬できる友達はいます。彼らから学ぶことも多いです。自分にはない視点、考え方、相手に対する配慮・気遣いなど色々な角度から自分を見つめ直してみることで、自分を磨くことが出来ると思います。これからもそのような仲間達を大切に、自分が研究したい分野を中心に広い視野で学びにしていけたらと思っています。自分を大切に今後とも自己研鑽に励んでいきます。

明星大学教育学部教育学科

特別支援教員コース3年

加藤春也